

会 議 録

会 議	平成27年度 第3回 尾花沢市庁舎建設検討委員会
会議日時	平成27年8月18日（火）午後6時30分～午後9時00分
会議場所	尾花沢市学習情報センター「悠美館」2階ハイビジョンホール
出欠委員 及び欠席理由	出席委員 12名 欠席委員 1名
事務局	尾花沢市役所 財政課職員 4名

会 議 概 要

（1）庁舎建設検討委員会の開催計画の変更について

○事務局

庁舎建設検討委員会の開催計画の変更について資料により説明。

○委員

実施設計の工期に影響するのか。

○事務局

実施設計については、基本設計と分離して発注を予定している。まずは、基本設計を完了させ、その後、市場動向なども加味しながら実施設計に着手していきたいと考えている。

（2）新庁舎素案について

①建物の配置、階構成とゾーニング案について

○設計事務所

建物の配置、階構成とゾーニング案について資料により説明。

○委員

屋上に自家発電機を設置する計画であるが、冬期間の積雪荷重も考えると屋根全体の荷重が相当重くなるのではないかと懸念している。

○設計事務所

以前の計画では、自家発電機を地下に配置する計画であったが、地上に比べて建築コストが約1.5倍嵩むことや、運転時の騒音対策も考慮して屋上に計画したところである。荷重については十分耐えられる構造とする計画である。

○委員

屋上の防水対策をどう考えているのか。また、平日に除雪機で投雪する場合、どの方向に考えているのか伺いたい。

○設計事務所

防水対策としては、全体に押さえコンクリートを施して防水保護し、除雪機等で防水シートを傷めないようにしたい。除雪作業のやり方であるが、除雪機自体の性能も含めて今後整理していきたい。

○委員

以前にも申し上げたが、屋根の積雪荷重については、尾花沢の雪質を十分考慮して対策を講じてもらいたい。

○委員

納入業者の立場からすると、荷物を運ぶためのエレベーターが配置されていると効率的と感じる。例えば、3階に印刷室が配置されているが、コピー用紙を搬入する業者からすれば階段での運搬は非常に大変かと思う。また、来庁者が使うエレベーターとの動線と分けてもらえるとうありがたい。

○委員長

要望として事務局で検討してもらいたい。

○委員

バススペースについてであるが、銀山温泉観光の中継地として必ず市役所に立ち寄るため、観光面からも十分配慮してもらいたい。

○設計事務所

実態把握して精査してまいりたい。

○委員

倉庫が3階に配置されているが、防災グッズ等を3階に運ぶのは大変でないか。

○事務局

防災関係については、2階、3階に保管庫を配置する計画である。2階については、防災対策に必要な資機材関係、3階については、防災研修室を災害時に一時避難所として開設する計画で、避難者の非常食保管庫として計画している。非常食であれば長期保管が可能のため、業者の出入りは頻繁でなく、庁舎の閉庁時にエレベーターで搬入してもらいやり方になろうかと思う。

○委員

無散水消雪についてであるが、井戸水を使うとなると配管関係が傷みやすい。消雪を考えるのであれば灯油の方がいいのではないかと思う。また、屋上の場合だと装置周辺部だけ融雪して雪全体に効果が得られるのか疑問な面がある。人力で除雪した方がいいのではないか。

○設計事務所

県内の地下水の平均温度が13、14℃ぐらいであるが、近隣の実測データをみると19℃ぐらい得られており効果があると考えている。

○事務局

雪対策については、建築構造や設備だけでなく、人力による除雪作業も必要になってこようかと思う。雪対策については今後とも継続して検討していきたい。

○委員

セキュリティ対策が必要な部分と市民開放エリアの区分けをどう考えているのか。

○設計事務所

具体的な計画はこれからであるが、開放部分であってもパイプシャッターなどでセキュリティ対策を講じる計画である。

○委員

保健センターについてであるが、現在の保健センターは外履きと内履きの部分があり不便に感じている。できれば内履きに統一してもらいたい。

○委員

階段の手摺についてであるが、両側に付けてもらいたい。

○設計事務所

手摺については両側に適切に配置したい。また、階段の勾配を緩やかにし移動の負担を軽減したいと考えている。

○委員

雪冷房用の貯雪室であるが、計画しているスペースはどの程度のものか。

○設計事務所

現在計画しているスペースは200㎡ほどのスペースで、庁舎全体の20%程度の冷房を賄うだけの容量を検討している。この点については引き続き検討したい。

○アドバイザー

人の動線と物の動線がどう移動していくのかシミュレーションして整理してもらいたい。また、個室の相談室についてはプライバシーをどう守るかといった部分をもう少し検討してもらいたい。

○アドバイザー

市民目線の動線をもっと考えるべきだと思う。全体的に硬いイメージを受ける。ある程度のゆとりも必要ではないか。市民ワークショップなども取り入れながら将来のビジョンを見通して作り上げる必要があるかと思う。

○設計事務所

色んなご意見をいただきながら将来の姿を見据えて整理していきたい。

②構造形式について

○事務局

新庁舎の構造形式について資料により説明。

○委員

建設予定地は地質調査しているのか確認したい。

○事務局

現庁舎の耐震診断時に2ヶ所調査しているが、予定地内については今後調査する計画である。

○委員

地質調査の結果次第で構造自体変わってくることもあるのか。

○事務局

基礎杭の長さが変わってこようかと思うが、構造自体は変わらない。

○委員

免震構造の施設を以前拝見したことがあるが、そうした構造にした場合に国からの助成というのはないのか。

○事務局

国では地震への備えとして耐震対策はやって当たり前というスタンスであり、耐震対策への特別な助成はない。

○設計事務所

基礎杭については1.5、6m程度想定している。若干の相違はあるかと思うが、庁舎周辺の公共施設整備時の地質結果を拝見する限り大きな違いはないかと思う。また、免震構造であるが、低層階の施設の場合、免震のメリットが薄い。

○委員

予定地は元々田んぼだったところである。十分調査して耐震対策を講じてもらいたい。

○委員長

新庁舎については、提案のあった鉄骨・制震構造をベースに進めていくということでご理解いただければと思う。

③ 空調設備計画（熱源方式）について

○事務局

新庁舎の空調設備計画（熱源方式）について資料により説明。

○委員

再生可能エネルギーを活用した熱源方式についてであるが、国からの補助金が少なく感じる。どのような積算でこうなったのか。

○事務局

今回の試算では、再生可能エネルギー活用の設備費用分のみで補助金を算出している。建屋部分については計上していないが、雪冷房の場合、当該部分も補助対象になるかと思う。一方で、木質ペレットや地中熱を活用した場合、その建屋部分、いわゆる機械室の部分については補助対象外の部分も含まれるため、全て補助対象にはならない。

○委員

建屋部分の方が費用がかかる。そう言った部分も含めて検討しないといけないかと思う。再生可能エネルギーは費用が嵩む。様々な補助制度を活用してコストを抑えてもらいたい。

○事務局

支援制度としては、補助金以外に過疎債など有利な地方債もある。そう言った制度も組み合わせで取り組んでいく必要がある。

○委員長

複数の熱源パターンが示されているが、事務局としてはどう考えているのか。

○事務局

熱源方式については、防災性や将来性、経済性、地域性のバランスのとれた方式が望ましいと考えている。また、技術検証委員会からは、非常時のバックアップ面から、一方式だけでなく複数の方式を併用するやり方もあるのではないかとの意見を頂戴している。現段階では、これが良いといった考えにいたっていないのが正直なところである。

○アドバイザー

委員長のとおりに、熱源方式をどれにするかは委員会の中で決められない課題かと思う。事務局で方針を打ち出す必要があるかと思う。

○設計事務所

複数の案を提案させてもらったが、環境貢献や実用性も鑑みると、木質ペレットがいいのではないかと思う。ただコスト面の課題があるため、その点は整理すべき課題かと思う。

○委員長

方式を絞って検討する時期にあるかと思う。ここで決めるということではないが、ある程度方向付けしていかないと次に進めないかと思う。事務局で整理してもらいたい。

○委員

近年、異常気象が続いている。その一因として化石燃料による地球温暖化もあろうかと思う。環境貢献の観点から森林資源を活用した木質ペレットの方式がいいのではないかと思う。

○委員

木質ペレットの場合、通年で安定供給できるかといった課題もあるかと思う。また、定期的な灰出で、灰の産廃処理をどうするのかといった課題もある。こういった点もどの程度の経費がかかるのか整理する必要があるかと思う。

○委員

未来に対する投資という考えもあっていいのではないかと思う。

○アドバイザー

将来を見据えて検討していくことは非常に大切なことである。

○事務局

皆様からのご意見を参考に今後ご提案させていただきたい。

(3) 総括

○アドバイザー

今後の進め方としてワークショップの開催との意見があった。ワークショップは市民の意見を吸上げるだけでなく、市民に周知する役割も担っている。参加した市民が関心もって動いてくれる可能性もあり、是非開催していただきたい。

○アドバイザー

市民と意見交換を図る上で、市民が能動的に動いてくということが大切。そのためには、ワークショップという手法は良い手段かと思う。

以 上